児童自立支援施設の歴史研究

Nara Women's University

人文科学系・人間科学領域　**二井　仁美**　教授　NII Hitomi　博士(学術)(奈良女子大学)

■研究キーワード　感化教育・教護教育,児童自立支援施設,家庭学校,社会的養育,教員養成,子ども虐待

■主な所属学会　教育史学会,日本教育学会,日本子ども虐待防止学会,社会事業史学会,日本社会福祉学会

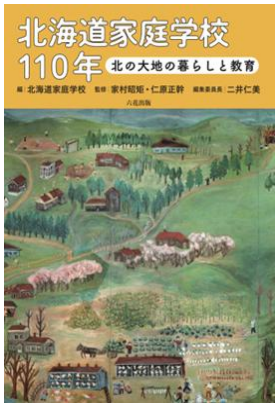
■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.1b03460d28b8a5be520e17560c007669.html　研究者総覧

研究概要

子どもは育つ環境や親を選んで生まれることはできません。貧困や虐待、戦争や災害など逆境的状況に晒され、親に代わる養育者の下で育てられる子どもは、どのように生きてきたのか？　排除や遺棄、包摂のなかで、どのように成長し自立したのか？　大人や社会は、そのような子どもにどのように向き合ってきたのか？　そのような問いを出発点に、児童自立支援施設の歴史を研究しています。とくに、留岡幸助(1854-1934)が創設した家庭学校に焦点をあて、近代日本の感化教育・教護教育の歴史を検討してきました。その延長線上で社会的養育に育つ子どもに寄り添える教員養成のあり方にも関心を寄せています。

主要編著書

1. 二井仁美著『留岡幸助と家庭学校　近代日本感化教育史序説』不二出版、2010年（改訂普及版、2020年）
2. 岡本正子・森実・二井仁美編『教員のための子ども虐待理解と対応　学校は日々のケアと予防の力を持っている』生活書院、2009年



アピールポイント

1. 児童自立支援施設の歴史研究

児童自立支援施設は、感化院・少年教護院・教護院を前身としています。「非行少年の施設」と眼差されることの多かった施設ですが、2023年、全国児童自立支援施設協議会は機関誌『非行問題』の誌名を『児童自立とWithの心　児童自立支援施設の実践』と変更しました。「非行問題」という名称が現在の児童自立支援施設の入所児童の実態に即していないと判断されたからです。史料を紐解くと、感化院や少年教護院を「不良少年」「非行少年」の施設と称することも適切さを欠くことがわかります。徹底した史料調査により、偏見から解放され、等身大の感化教育・教護教育史を捉えることをめざしています。

2. 社会的養育に育つ子どもに寄り添える教育養成・教育福祉史研究

現在、文部科学省が定める教職課程は、社会的養育に育つ子どもや児童福祉を学ぶカリキュラムになっていません。子どもの権利を保障し「教育と福祉の谷間」に橋を架ける研究、「教育と福祉の協働(Woriking Together)」を可能にする教員養成に関心を寄せています。

3. 児童福祉施設に残されてきた記録史料の保存

児童福祉施設の記録史料を必要とする人に届けられるように、記録史料の保存と管理・利用のあり方にも関心を寄せています。たとえば、家庭学校を源流とする社会福祉法人東京家庭学校と社会福祉法人北海道家庭学校には、留岡幸助や家庭学校関係者が収受作成した数万点の記録史料が残されています。1990年代からこれらの史料の保存に取り組んできました。近代日本の歴史を考察する上でも貴重な史料群を後世によい形で遺していくことに尽力していきたいと考えています。

お問い合わせ：奈良女子大学社会連携センター　Tel:0742-20-3734　Mail:liaison@cc.nara-wu.ac.jp

更新日：2025年1月1日